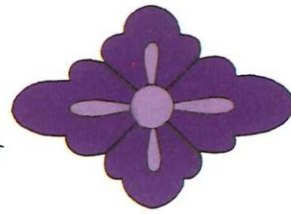




# 菩提樹

佛さまに育てられる年輪

第10号 平成24年4月発行



編集・発行  
正法寺

山口市江崎2710

TEL  
083-989-2213

FAX  
083-989-5339

## 「世の中安穏なれ 仏法ひろまれ」

— 五〇年に一度のご勝縁 —

### 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要参拝特集





# 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を終えて

正法寺住職 眞城 眞信



昨年四月からご本山において勤められてきた親鸞聖人七五〇回大遠忌法要も、今年の一月十六日に御満座をお迎えいたしました。65日間115座が勤められ、143万人を超える方々が、全国から参拝されました。正法寺が所属する山口南組も四月と九月に団体参拝を計画し、正法寺からは、合計五十五名の御門徒が参拝されました。

今から約五〇〇年前、蓮如上人が親鸞聖人の御一生を偲び記された『御俗抄』の中の一節には、次のような御文があります。

「あはれなるかなや、それ聖人の御往生は年忌とほくへだたりて、すでに一百余歳の星霜を送るといへども、御遺訓ますますさかんにして、教行信証の名義いまに眼前にさへぎり、人口にこれり。」

永い時代を経ても、人が抱える根本問題は変わることがありません。人は、

いつの時代も、自分という色眼鏡をかけて、生に惑い死に惑っていきます。親鸞聖人自身が、抱えておられた苦しきは、想像を絶する深みを持つものでした。その深い絶望の淵で出遇つてゆかれたのが、法然聖人から授けられた選択本願の念仏だったのです。蓮如上人の時代から、さらに五〇〇年が隔たりました。時代は様々に姿を変え、人々の価値観も大きく変わりました。しかし、親鸞聖人の御遺訓が人々にもたらす意味は、七五〇年隔たった今も変わることはありません。親鸞聖人の御一生を偲ばせていただく時、そこには、煩惱を抱え惑う者の歩むべき正しき道が、厳然と示されています。

この度の大遠忌を単なるお祭り騒ぎにはなりません。一人ひとりが、親鸞聖人の御一生を偲ばせていただき、眞実を頂いていく尊い勝縁とさせたいものです。

## 第一期(四月九日〜十二日)

高根上 久保 實

まさに、感激の一日でした。御影堂をうめつくす全国からのお参りの人。おじいさんもおばあさんも、若い人もかなりたくさんいらつしやる。

そして、そのだれもが、きつと前を見つめ、ひたむきなお念仏。その目には、ご勝縁に遇え、本当にお念仏をよろこべるうれしさが浮かんでいるように見えました。

ちよびり自分が恥ずかしく、改めて、受け継ぐことよろこびを実感させられた一日でした。



大宴会



満堂の御影堂内

深溝 藤永紀子

この度、ご本山親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の、ご勝縁に出遇わせて頂き、宗祖のご遺徳の大きさをあらためて感じました。御影堂での参拝は前の方の席でした。法要中、御門主様と新門様を拝し、有り難いご縁だったと喜んでおります。正法寺からは、二十一名の参加でしたが、法響君も一緒だった事は、楽しい思い出となりました。次の日は、津市にあります浄土真宗高田派のご本山専修寺へ、お参りさせて頂き、有意義な法要参拝でございました。





専修寺参拝

今津ヶ丘 馬木末好  
親鸞聖人七五〇回大遠忌法要のご勝縁に恵まれ、参拝団の仲間に入れていただき、念願のご本山にお参り出来た事このうえもない喜びでした。  
御影堂にお参りすると感激で思わず涙があふれ、ありがたい事とお念仏申した事でした。浄土真宗のご法義を喜びお念仏申す日々を過ごさせていだかなければと思つた事忘れませんでした。  
法友の皆さんも親しくしていただきありがとうございました。

第二期(九月十三日~十四日)



御影堂内にて

高根上 原田幸政

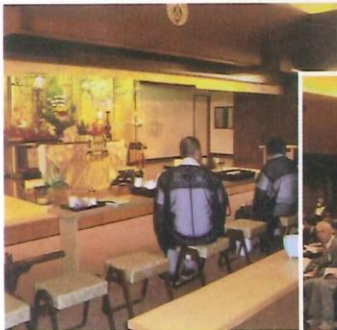
親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に、ご院家様のご心配により、門徒の皆様と団体参拝の機会を得、夫婦でお参りする事ができました。

私たち団体は御門主様のもと、御影堂での午後法要でお勤めをいたしました。九月半ばとはいえ残暑がきびしく額の汗をふきながらも、五〇年に一度のこの厳かなる法要に心を奪われました。また日頃なかなか参拝する機会のない大谷本廟や日野誕生院等も案内していただき、ありがたい事と思えました。記念写真を見ながら、次の八〇〇回忌は子か孫がお参りしてくれるのかなと思つ今日この頃です。

厚東 渡辺富士江

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に坊守様、如恵さん、正法寺ご門徒の方々と参拝のご縁に恵まれ、九月十三十四日上山しました。

残暑の厳しい中でしたが、御影堂内のこれまで味わつた事のない緊張感に感動しました。そんな中回つて来られた東日本大震災への義援金に賛同し、被災地へと思いを寄せつつ、改めて親鸞様のお心に触れさせていただいたことでした。この尊いご縁に遇えた事に感謝し、大切に歩ませていただくとうと強く思いました。



大谷本廟参拝



比叡山参拝

前寺内 村田昌子

9月13日10時13分新幹線京都駅着直ちに大谷本廟へお参りする。

14時30分から15時30分まで、内陣前卓は「九具足」打敷は「親鸞聖人の足跡文様」で荘厳してある中を、御門主様紫、新門様赤の法衣で御出座され華麗な大遠忌法要が宗祖讃仰作法(音楽法要)で営まれた。スローガンの「世のなか安穏なれ」は親鸞聖人晩年のお言葉であるが、今を生きる願いでもある。

七五〇回大遠忌法要で得た感動をかみしめ、今後を歩みたい。



# 正法寺寺内門徒の伝統



総代 有田 裕

浄土真宗の門信徒にとって最も大切な法要は、親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ御正忌報恩講であります。

今年は、一月十三日から三日間、報恩講が厳修されました。

この報恩講のお世話係りは、古くから寺内の門信徒が勤めるものとし、前寺内二班、後寺内二班の四班が持回りで御報謝することとなっております。

毎年、十二月十六日の御命日法座の夜、寺内の門信徒全戸が出席し「正法寺お内佛・寺内総お取越し報恩講」を営み、終了後に翌年の御正忌報恩講の日程などの打合せが行われます。今年も、後寺内西班(十戸)が当番でした。

世話人が中心となって、各戸の役割分担を定め、先例に習って取組み

ました。女性は、お供え餅の餅米洗

い、餅筒作り、餅つき、餅切り、餅盛

り、献立打合せ、お斎作りなどの裏

方を、男性は、幕張り、梵鐘、仏旗、

本堂内外の整理整頓、法座全般の

進行などの表役にあたりました。

事前の諸準備と三日間の法座を含

め一週間余りの日々は、各戸が万障

繰り合せて対応することとしてい

ます。高齢化が進む中で若返りに

も努め、御住職様、坊守様のご指導

と総代会、仏教婦人会のご支援の

もとに、御報謝させていただきまし

た。

「正法寺の護持は、寺内の門信徒

が率先して勤めよう」との良き伝

統を誇りとし、有難く受け止め、

次代に引継ぐことを大切に思うこ

とであります。

## お取り越し報恩講と御正忌報恩講

寺内  
総お取り越し報恩講の様子



お斎の様子



お斎準備



報恩講の打ち合わせ



ご法話



おつとめ



御正忌報恩講御報謝の様子



筒におもちを入れる



おもちつき



お飾りもち用の筒づくり



お飾りもちを盛る



おもち切り



本堂の幕張り



出来上がったお荘厳



男性陣の打ち合わせ



報恩講お齋メニュー



けんちょうづくり



後片づけ



お齋の様子



お齋後のお椀洗い



### 早朝法座に参拝して

今井 伊藤公祐

早期法座は一月を除き毎年親鸞聖人の月命日に、響きわたる晨朝の鐘と共に始まり、お正信偈が行誦で勤まります。

そして御住職から「蓮如上人御一代記聞書」について、少しずつ詳しく解り易い御法話を聴かせて頂いています。また、この一代記の前には歎異抄について親鸞さまの有難い教えを学ぶことができ、その第一条を覚える機会となりました。

今後一人でも多くの方とお会いできるよう努めたいと思います。



### 御法座の御縁をいただいて

幸の橋 田中恵美子

門徒になり、早十五年、若い時は正月か盆くらいしか、手を合わす事はなかったのですが、今は毎朝合掌しています。

本堂で聞く念仏の教え、法話お寺に参らずには聞けません。最近新発意さんの声も聞こえ心和みます。老いるまでお参り出来ますようお願いしています。



## ご門徒の声

### 連続研修会に参加して

厚東 中井美由紀

仏教に無知な私を研修会に参加させていただきありがとうございます。最初は二年間、しかも夜だということが続けられるかどうか不安でしたが、回を重ねるうちに次回を心待ちにしている自分がいました。

作法を学び、たくさんのお話を聞かせていただいたことで、自分自身を見つめ直すことができました。親鸞聖人さまが与えて下さった「ご縁」を大切に、毎日を通「ご縁」たいと思います。

### 仏仕がご縁となり

赤坂 原田茂行

お寺参りは無縁の私でした。ある年仏仕の役を引き受ける事になり、先輩方のご指導を受けながらお寺参りをしました。平成二十一年秋、家内が突然大病を患い途方に暮れていました。そんな時自分は如来様のお膝元に居ることに気付かされ、喜びと安堵で心安らいた日々を送ることが出来ました。お陰様で家内も元気になり、今では夫婦でお寺参りをさせて頂いています。いつも如来様のおそばで南無阿弥陀佛。ありがとうございます。合掌。

### おみがき奉仕に参加して

中野下 有吉悦子

数年前「今度おみがき奉仕に行かん？」と或る人に誘われ、好奇心と不安を胸に参加しました。

数組に分かれ、先輩に教わりながら仏具を磨き終え、とても充実した晴れやかな気持ちになり毎年参加しています。昨年は若い方が入られ和気藹々の内に仕上がりました。赤いローソクに照し出された仏具を見ながら聞法する時、誘って下さった方に感謝し、これからも続けようと思えます。





# 寺族あるばむ



ペットボトルのキャップで作られた『親鸞さま』の前で。



残暑厳しい9月の参拝でした。



うれしい!楽しい!!大宴会!!!



まもなく法要がはじまりますが…この後すぐ眠りました。

## <大遠忌法要に参拝しました。>



お陰様で4月から1年生になりました。



1/16

## ご本山の親鸞聖人750回大遠忌御正當にお参りました。

法要後、参詣者の方々が御影堂門からそくそくと外に出ていく中、新発意から「阿弥陀さまにもお礼して帰ろう!!」とありがたい言葉があり、阿弥陀堂にも家族でお参りをさせていただきました。

## 愛猫コマッチョ



昨年七月、お寺に十二年おりました猫が「過間の悪いで亡くなりました。とても穏やかな猫で、子ども達も赤ちゃんの頃から遊んでおりました。特に新発意は、曾祖母と猫と一緒に遊ぶ、住職・坊守が忙しい時は、猫に遊んでもらうことがよくありました。遊ぶのも寝るのも一緒でした。

七月に入り体調が悪くなり、二度いなくなり皆で探しましたがなかなかみつからず、子どもたちは毎晩、「コマッチョ」と泣きながら寝ていました。四日後、やっと見つけられ何度も病院へ連れて行きました。車で病院へ行く道中は、猫にとつては、とても怖く、「大丈夫よー」子ども達が声をかけてくれていました。家での看病もよく手伝ってくれましたが二日後、亡くなりました。保育園から帰って来た子ども達に亡くなったことを伝えると、新発意は号泣しました。皆で棺にお花を飾り、本堂で涙々のお正信偈をおつとめしました。境内墓地の脇に穴を掘り埋葬しました。



父(以下父) 母(以下母)  
法要(以下法)

父 コマッチョ(猫)が、カズ君に仏様のお話聞いて欲しいって言ってるよ。

父 どうやらうね。お父さんにも分からないけど、み仏様は、コマッチョのこと、放っておかないやろね。

父 いろいろないちがある中で、人間に生まれてくることは、本当に難しいんだよ。カズ君は、せっかく人間に生まれさせて頂いたので、お聴聞しようね。

母 今度は、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

母 今度、コマッチョもお寺の子どもに生まれてくるといいね。

坊守 育兒日記より



## 日曜学校 サマースクール

8月19日～20日(親子で98名参加)



お父さん方による  
バーベキューづくり



竹とんぼと水でつぼつぼり



仏社会員によるマジックショー



おいしかったバーベキュー



入所式、お正信偈おつとめ



お母さん方による  
茶がゆの朝食



オバケに扮した日校卒業生



夜のお散歩に出発

## 東日本大震災 支援活動

今後活動を続けていきたい



梱包された支援物資

日校生親子による  
仕分作業



日校生によるお手紙



東日本大震災 支援物資募金

募金総額: 109,392円 (内訳)

- 本堂設置募金箱より: 58,092円
- コーラス芬陀利華より: 10,000円
- 本願寺新報団体購読助成金(平成19年～平成22年分)より: 41,300円

### 編集後記

「本山での五〇年に一度のご縁に遇わせて頂きました。東日本大震災から一年、「いのち」とおしさ・せつなさを重さが問われ続けています。生かされている命を味わいながら、一日一日を大切に、お念仏申し過ごさせて頂きましょう。」

### 義援金報告と御礼

昨年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、正法寺においても、ご門徒の皆様が義援金を募って参りました。被災された方々の痛みは、今だ癒えることはありません。親鸞聖人の「御報恩のために御念仏ころにいて申して、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべし」とのお心を胸に刻み、報恩謝徳の日々を大切に歩ませていただきました。ご協力賜りました募金につきましては、被災地へ届けていただきました。ご協力誠にありがとうございました。

募金総額: 109,392円 (内訳)

- 本堂設置募金箱より: 58,092円
- コーラス芬陀利華より: 10,000円
- 本願寺新報団体購読助成金(平成19年～平成22年分)より: 41,300円